

COP30・環境省セミナーへの桑原社長兼 CEO の登壇 ～インド・大阪市都市間連携によるグリーン水素及び e-メタン利用～

カナデビア株式会社は、このほど、2025 年 11 月 10 日～21 日（予定）にブラジル連邦共和国のベレン（パラ州都）で開催される国連気候変動枠組条約第 30 回締約国会議（COP30）において、ジャパン・パビリオンにおける環境省主催セミナーへの当社・桑原^{くわはら} 道^{みち}社長兼 CEO の登壇（講演）が決定しましたので、お知らせします。

【セミナーの概要】

タイトル：クリーン・シティ・パートナーシップ・プログラムセミナー

主催者名：環境省（共催：独立行政法人国際協力機構（JICA）、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES））

実施日時：（現地時間）2025 年 11 月 12 日（水）15：45 ～ 17：00（内、当社約 10 分）
（日本時間）2025 年 11 月 13 日（木）3：45 ～ 5：00（同上）

当社登壇者：桑原 道 取締役社長兼 CEO

当社登壇内容：インド・マハラシュトラ州－大阪市連携

～ グリーン水素と e-メタンによるカーボンニュートラルへの貢献 ～

Webinar 用 URL：<https://zoom.us/j/92527581522?pwd=J1fa3WJGjMum4a0riDwyuVXJfURbAa>

クリーン・シティ・パートナーシップ・プログラムは、環境省と JICA が共同で立ち上げたプログラムで、日本の自治体、民間企業、金融機関等が参画し、G7、国際開発金融機関（MDBs）等とも連携しながら、パートナー都市における気候変動、環境汚染、循環経済、自然再興（ネイチャーポジティブ）を含む都市課題に対して包括的かつ相乗的な支援を提供するもので、その中核事業として「脱炭素社会実現のための都市間連携事業」※も実施しています。

当社は、インド・マハラシュトラ州と大阪市の都市間連携事業の一環で、インドの企業と連携し、当社の固体高分子型水素製造装置によるグリーン水素の製造と、ゼオライトを用いた当社の高性能分離膜によって回収したバイオガス由来の CO₂ を用いたメタネーションによる e-メタンを製造するプロジェクトの FS（Feasibility Study：実現可能性調査）を行っており、その内容や今後の展開を本セミナーにおいて紹介します。

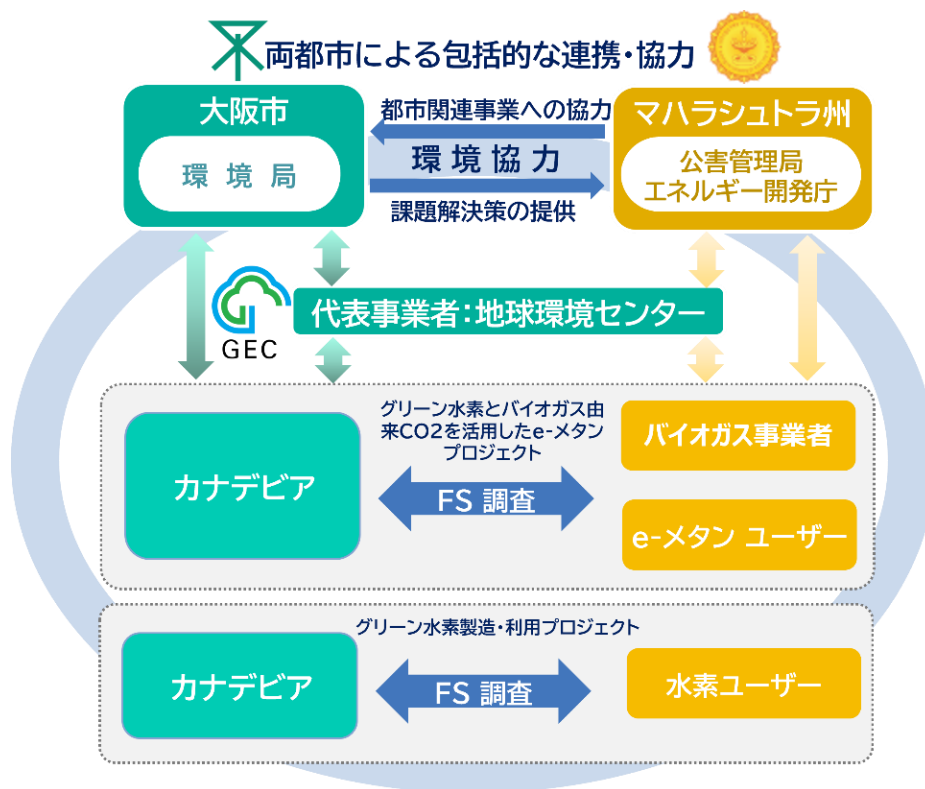
また、当社は、昨年に引き続き、ジャパン・パビリオンにおいて展示を行います。セミナーにて紹介する FS ではバイオガス由来の CO₂ 活用を行います。当社はバイオガスを発生させるメ

タン発酵技術にも高い知見を有しています。このため、今回の展示では「廃棄物資源をまるっと使い切って世界の日常を脱炭素」をテーマとし、近年、改めて対策の必要性が世界的に高まってきている、温室効果ガス（GHG）の一つであるメタンの排出削減・回収・利用に焦点を当て、有機性廃棄物の資源利用・適正処理技術を中心としたソリューションを展示します。

当社は、今後も様々なステークホルダーとともに、GHG 排出削減と環境負荷低減に向けて挑戦していきます。

※ 脱炭素社会形成に関する経験やノウハウ等を有する日本の自治体と海外の自治体による、脱炭素社会形成への取組を効果的・効率的に支援するもの。具体的には、日本の自治体が、日本の研究機関、民間企業、大学と連携して実施する、海外の自治体における脱炭素技術の導入・サービスの活用に向けた調査・能力開発等を推進する。

【ご参考：カーボンニュートラル実現に向けた、マハラシュトラ州・大阪市連携による脱炭素技術導入促進事業の体制図】



(出展：公益財団法人地球環境センター ウェブサイト <https://gec.jp/jp/post-5637/>)

(終)